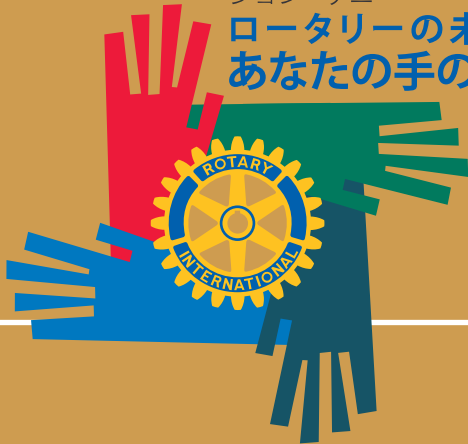


2009～2010年度 国際ロータリーのテーマ  
ジョン・ケニー

ロータリーの未来は  
あなたの手の中に



会長／対馬健一 幹事／中出敏彦

RI第2510地区

# 留萌ロータリークラブ 会報

2009▶2010 WEEKLY REPORT

留萌ロータリークラブ会長テーマ

## 親睦でクラブの活力と結束を、 そして奉仕は足もとから

### プログラム

- 本日  
会員卓話「我が生き立ち」  
斎藤・佐々木・古野・高橋 会員
- 次週予定  
情報集会発表

No. 2385

第8回 8月26日

出席報告

前例会

会員総数	43名
出免会員	4名
出免出席	2名
出席会員	33名
出席率	80.49%

前々会

第5回 8月5日

出席会員	37名
メイクアップ	2名
修正出席率	83.33%

例会／毎週水曜 12:15～13:15 留萌産業会館2F



### 会長報告

- 留萌市手をつなぐ育成会主催の第20回収穫祭パーティーのご案内をいただきました。日時は9月12日午後6時30分で、場所は留萌市中央公民館です。
- 8月8日のあんどん例会は天気にも恵まれ、多くの会員のお手伝いをいただきありがとうございました。
- 10月3～4日に滝川市にて開催される地区大会に、37名という多くの会員の登録をいただき感謝申し上げます。
- 米山梅吉記念館創立40周年記念式典のご案内と館報をいただきました。



### 幹事報告

- 1) 芦別ロータリークラブより活動計画書を受領しました。

会報受領先

・砂川RC No.1921号～No.1925号



### 委員会報告

社会奉仕委員会

西谷(恭)委員長

あんどんパレードに参加された会員の皆様、大変ご苦勞様でした。また当日、ワールドワンの様、夜蘭花様、モンロー様、志路様から沢山の差し入れを頂きました。ありがとうございました。それと、パレードにて使用したハッピーですが、岡谷クリーニングさんにはまだ半分位しか

## 第7回 8月19日(水) 天候/雨

届いていないと連絡が入っています。お忘れの方はお早めに岡谷クリーニングさんまで届けて下さい。

### ニコニコBOX .....

- 地区大会、多くの皆様の登録ありがとうございます  
対馬会長
- 8月8日のあんどんパレードありがとうございます  
西谷(恭)会員
- 写真撮影ご協力ありがとうございました  
澤田会員
- 田中先生よりDVD、佐藤(寛)会員より写真をいただきました  
中川、河部会員
- あんどんDVDをいただきました 武井会員
- あんどんの写真いただきました  
田中、遠藤、山本、大嶋、行徳、関野各会員

前 回	261,000円
今 回	15,000円
累 計	276,000円

### プログラム .....

#### 「富士登山駅伝について」

留萌駅伝チーム監督 小林 敬様

本日は留萌ロータリークラブの例会にお招きいただき、誠にありがとうございます。

私は前監督の近藤監督より2年前に監督を引き継ぎました。たしか平成18年に3位入賞を果たし、ロータリークラブの例会にて報告をした記憶があります。今年も3位入賞を目指し頑張りましたが、残念ながら4位という結果となりましたので、本日ここに4位入賞の報告をさせていただきます。私はこのような講演は初めてです。大変緊張しておりますが、よろしくおねがいします。留萌自衛隊駅伝チーム、本日のテーマを「絆」として進めさせていただきます。

本日の卓話は5項目ありまして、①大会成績、②過去5年間の成績、③留萌チームの特性、④選手の絆、⑤チームの絆、についてお話をさせていただきます。

まず、今回の秩父宮記念第34回富士登山駅伝の大会成績は留萌チームは前年と同じ4位でした。1位は前年度優勝チームで、地元の滝ヶ原自衛隊チームでした。時間は2時間59分09秒です。第2位は第1空挺団チームで、3時間02分32秒でした。目標にしていた第3位には九州鹿児島県の国分自衛隊チームでした。時間は3時間04分34秒。そして第4位に留萌自衛隊チームが入り、時間は3時間05分35秒でした。以下5位は守山自衛隊35普通科連隊チーム、6位北熊本42連隊チーム、7位練馬1普連、8位大宮32連隊、9位板妻34連隊、10位は米子自衛隊チームでした。区間では富士山の山頂を目指して御殿場陸上競技場から青年の家までの1区5.48km、標高521mを三浦三曹33才が11位で飛び出し、2区4.64km、青年の家から馬返し上までを加藤三曹35才、最年長が5人を抜いて6位まで上がり、その時点で標高は705mです。3区は新名士長、初参加で留萌で走りたくて21才の若さながら宮崎から転属してまいりました。1年目で選手となり3区を任せました。馬返し上から太郎坊まで、標高は1051m、順位はそのまま維持、そして4区から砂走りとなりまして、3区までは舗装道路ですが4区からは砂・火山灰の道を走り、標高1431mで、太郎坊から2合8勺まで、新井三曹が若干順位をひとつ落としますが、粘り強い走り、山区間のエースである北住士長、熊本県出身の22才に繋がりました。標高が2085mまで上がります。そして5区が、2合8勺から7合5勺まで、今年はこちらでドラマがありました。本来であれば、留萌チームの最も得意とするところではありますが、今年梅雨明けが遅くて気温4度、風速20mという、昭和57年以来の7合5勺折り返しとなってしまいました。

このあとの6区は前年度区間賞をとった佐藤三曹でしたので、大いに期待される場所でしたが、残念ながら5区の北住士長が折り返しとなってしまいました。ちなみに6区の折り返し地点は標高3720mで、山頂が3776mです。この5区の選手たちには過酷なレースとなりましたが、この悪天候の中、北住士長は圧倒的な走



りで7位から一気に3位争いを演じ、8区の新井三曹につないだ。8区では新井三曹が3位に順位を上げ、9区新名士長につないだ。3位争いは9区・10区で続き、九州でNo.1の国分自衛隊チームと争い、10区加藤三曹、アンカー11区三浦二曹が粘るも、スピードに勝る国分自衛隊には及ばず4位でテープを切りました。

今年のチームの目標は、昨年が4位でしたので目標は高く、3位以内入賞を目指し1年間練習に励みました。しかしながら、山頂部の6区が中止となり、残念ながら4位という順位になりましたが、最後まであきらめずに走った選手にエールを贈りたいと思います。私から選手に対し目標を達成するために、4つの要望をだしました。1つは、走る情熱。2つは仲間との信頼。3つ目が野性的な走り。そして最後に感謝と絆です。走る情熱とは、仕事も趣味もそうなんですけどやはり情熱がなければ続きません。そしてタスキを繋ぐための信頼を大切に、野性的な走りとは、平地の大会であれば野性的な走りは必要ないのですが、富士山を走るという過酷な条件での走りでは、やはり野性的な気持ちがないと人間だけの本来の力では一つ上にいきませんので、選手には野性的な部分は大事だという事をいつも伝えています。

最後に、感謝と絆です。我々がこのような大会で走れるのは、同僚が我々がいない時に仕事をカバーしてくれるからで、現在お盆休暇中にも関わらず、兵庫県や九州の災害に派遣されていますので、大変感謝致しております。そして絆ですが、これが留萌チームの特性ですが、選手と選手の絆、選手と監督との絆が大切だとい

うことです。

ここで過去5年の成績をお話いたします。平成16年は5位、17年も5位、そして平成18年が3位入賞を果たしました。平成19年は6位でしたが、昨年平成20年度は4位でした。ちなみに平成11年度12年度は3位で、平成9年度には準優勝しております。

次に留萌チームの特性ですが、これは第1にベテランが強い。三上世代で35才の選手が3名おります。他のチームは20代の選手が多いのですが、留萌チームはベテランが若い選手を引っ張っております。第2に山岳区間の若返り。私も38才まで、一昨年まで走っておりましたが、その山岳区間も25才の選手に交代致しました。第3に自然環境に恵まれているという事です。留萌チームは、よく他のチームから「スポーツ施設が無くて大変だね」などと言われます。しかし、私を含めて選手一同は、千望台や日本海など、吹雪を含めて自然環境全てが練習になります。10月下旬から3月下旬までの期間は雪等で、本州の選手からは「冬は走れなくて大変だね」と言われますが、冬の道の方が走りこみには最適だと私たちは思っております。そして先ほど話した、選手と選手、選手と監督との絆、感謝の気持ちです。また、留萌チームは登りに強い留萌とも言われておりました。平地ではそんなに良い順位ではなくても、登りに強い伝統は守られております。そして特性の最後に、応援団が日本一であると言う事です。今年も高橋留萌市長を始め、留萌支庁長さんも応援に来ていただき、赤いTシャツを着て、熱い声援を頂き、日本一の応援団だと思っております。

そして選手の絆についてお話いたします。先ほど留萌チームの特性としてベテランの選手の事を言いましたが、留萌チームには4名の誇れるベテランがおります。三上雅等35才、平成16年に旭川より留萌に配属になり、近藤監督の時代の18年の3位入賞に貢献しております。現在キャプテンです。2人目は加藤正彦35才、留萌で走りたくて平成18年仙台より留萌に配属、平成18年の3位入賞に貢献、今年も最年長で大会に出場しております。同じく平成18年旭川より

## 第7回 8月19日(水) 天候/雨

---

配属になり、現在コーチの片山純35才です。最後に進藤タカシ35歳で留萌出身です。平成18年の3位入賞に貢献しており、現在富士学校静岡の方に行っております。4人の共通点は、4名とも同級生で陸上部、大学時代は陸上部で全日本大学駅伝出場、卒業後、進藤三尉だけは別ですが、他の3名は一回スパッと陸上をやめて、就職をしています。その後、この4人は陸上の情熱を忘れず自衛隊に入隊するが、この4人は各々自衛隊に入隊したことは知らず、自衛隊の駅伝の全国大会で再会し、お互いに「お前自衛隊に入ったのか、今度一緒に走ろう」という事で、留萌で再会しました。高校を卒業して14年後のことです。進藤三尉は留萌出身、三上二曹は羽幌出身という事で、中学校・高校時代はライバルでした。三上二曹と片山二曹は札幌学院大学で北海道代表として全日本大学駅伝に出場しております。三上二曹、加藤三曹は高校時代インターハイに出場、大学時代は全日本大学駅伝に出場しております。片山二曹だけはレベルが高く、銀行員を1年経て、自衛隊の大学校へ行きまして、実業団選手と共に限界まで挑戦しました。加藤三曹に付きましては、東北の6師団ですが、ここは自衛隊で駅伝では日本一の駅伝チームでありまして、駅伝で全国優勝を経験しております。進藤三尉は留萌出身でバイアスロンでアジア大会銀メダル、ワールドカップにも出場しております。この4人の内1人でも留萌に居れば、この留萌の伝統を継承してくれるものと思います。

次にチームの絆という事で、お話致します。今回の富士登山駅伝には私以下16名が参加いたしました。走る選手は6名ですが、戦いは監督以下16名で戦うと決めております。1区から6区までの6名でつなぎ、補員は3名までが登録されます。登録されない選手もあり、最後の記録会においてはゴールした後に泣き崩れてしまう選手も出てきます。目標としていたタイムが出ずに、本当に見ていて涙する瞬間でもあります。1年間駅伝に情熱を傾け、この瞬間に全てをかけるのですから、選ばれた選手はこの選手達の為にも最後まで諦めず、頑張ろうという気

持ちになります。力的には正直言いまして山頂区間が一番のチームの強みでしたが、6区の山頂区間が中止となり、正直6位から7位くらいの順位でしたが最後まで諦めず、5区の北住士長が頑張ってくれて、この富士登山駅伝のエース区間を若干22才の若さで走り抜けました。ただ残念ながら、北住士長は今年退職してしまいます。本当は昨年自分の夢を実現するために退職する予定でしたが、昨年4位という事で、1年間だけという条件でこの日のために残ってくれました。北住士長は最初7位でタスキを受けましたが、強豪チームの選手を抜き3位まで順位を上げてくれました。私は日ごろ結果だけを求めておりますが、感動はそれを見てくださる方が感動するもので、感動を求めた走りはするなどっております。しかし私自身、北住士長の順位経過とタイムを無線で聞いていると、涙が込み上げて、そのタイムを書き写す事が出来ませんでした。

この様に4名の選手の絆、チームの絆がある限り、留萌のチームは戦い続けていけると思います。留萌自衛隊駅伝チームは留萌市民の支えと応援があり、今に至っております。今後も留萌自衛隊駅伝チームは留萌市民とともに戦います。今後とも応援よろしく願います。

本日はありがとうございました。